



一般社団法人

群馬県作業療法士会ニュース

「からつ風通信」

第152号 2023年4月発行

GAOT

Gunma Association of Occupational Therapists

巻頭言

新年度を迎えて(皆さんにお願いしたこと)

一般社団法人群馬県作業療法士会 会長 新井健五

新たな年度を迎えて、各職場には、大きな希望と不安を胸一杯に、ピカピカの新人さんたちが入職されたことだろう。新人の皆さんには、会を代表して、心よりの「おめでとう!」と「OTになってくれてありがとう!」の言葉を送りたい。

この世代はコロナによる影響をダイレクトに受けた世代でもあり、とりわけ臨床実習も満足にできなかつたという人も少なくないのではないだろうか。先輩の皆さんには、ぜひとも温かい目で見守り、丁寧に育てていっていただければと切に願うものである。

さて、皆さんの中の新人さんは日本作業療法士協会(OT協会)及び群馬県作業療法士会(県士会)に入会されているだろうか?これまでの新入会者の入会月データを見ると、5月が圧倒的に多く、次いで大きく減って6月、そして4月、その後はどんどん少なくなってしまう。やはり、機会を逸するとなかなか改めて入会しようという気は起こらないものである。先輩会員の皆様には、ご自身の職場における新人の入会状況をご確認いただき、この気持ち新たな大事な時期(タイミング)を逃すことなく、ぜひともわれわれの仲間になってもらえるようなお声掛けをお願いしたい。

ところで、協会の組織率が年々低下しているのはご存じの通りである。2021年度にはついに60%を切り、なお減少の一途だ。原因の1つとしては、新卒国試合格者(新卒者)の入会率の低下傾向が著しいことがある。7割を超えていた新卒者入会率も2021年ではわずか57%となり、OTになつたらOTの会(団体)に入るのが当然と何の疑問も感じていなかつたあの頃からすると隔世の感は否めない。養成校別のデータを調べてみると、新卒者の入会率が50%以下の学校は34.9%に上り、75%未満で見てみるとなんと71.9%にも上っている。一方で、退会者数は増加の一途であり、もはや退会者数が入会者数を上回ろうという状況だ。改めて言うことでもないが、組織率は「発言力(発言の信頼性)」である。発言力は、われわれの収入のもとである報酬改定にも直結するし、決して大げさな話ではなく職種や職能の地位や将来にも関わってくる。

退会者の退会理由データを調べてみると、正直いたしかたないといえる切実な理由も多い。職能団体として、退会者を減らす取り組みの重要性を認めつつも、やはり“今”注力していくべきは、新卒者の入会促進(職場においても、職能団体に入会する意味の啓発を、新人だけでなく、新人に影響を及ぼす先輩OTにもしていただけますよう、各職場の代表者の方々宜しくお願ひします)と、明日の仲間である養成校の学生さんたちに職能団体に入会することの意義をわかつていただくこと(各学校の先生方、何卒宜しくお願ひします)、そしてまだ見ぬ仲間となり得る高校生や中学生、さらには小学生に将来OTを目指していただけるようにして裾野を広げること(県士会としても頑張ります)ではないかと考える。とはいへ、OTがいかに魅力的な職業であるかの発信と、そもそもOTを魅力的な職業たらしめるような臨床実践をすること、これをOT一人ひとりが日々心がけるようにすることが何よりの前提であることは忘れてはならないだろう(会員の皆さん宜しくお願ひします)。

今OTとして恩恵を受けているわれわれには、将来のOTたちのために社会的補償、質、そして信用を守っていく義務があるといつも思うのだ。会員一人ひとり・職場・養成校・県士会・協会が連携して組織率の問題に取り組むこともまたそのためには大事だと考えるものである。